

駒澤書院

草印

第18号

発行日：
2024年7月21日
発行所：
株式会社エヌワイケー
〒154-0012
世田谷区駒沢5-7-6
電話：
03-3704-8391
FAX：
03-3703-7121
発行人：
横山和俊

所長のひとこと -私の趣味-

初夏の候、皆様におかれましても益々清涼の「」とお喜び申しあげます、所長の横山です。連日暑い日が続いているとあります。今年の夏も、統計開始以来最も暑い夏といわれた昨年同様、猛暑になれば毎年々増加しており、深刻度は増してこます。豪雨被害も心配ですが、日常生活における熱中症にも注意が必要です。すでに幾度となく発令をされていますが、今年の4月より環境省と気象庁とが「熱中症特別警戒アラート」の運用を始めました。このアラートが発令されると自治体は冷房の利いた公共施設などを開放します。昨年は熱中症による救急搬送者数が過去最高の約140人に上りました。熱中症は夜間も含め、いつでも起こりうるものであります。命にかかることもあります。この猛暑から身を守るために、今までの常識は通用しません。8月7日から始まる全国高校野球選手権大会は、暑さが厳しい日中を避け、朝夕に分けて試合を行う2部制を今年より導入します。私も軽い熱中症は何度か経験しています。外仕事の際は、油断なくじまめに水分補給するなど適切な対応を心がけています。皆様におかれましては自愛いただき、この暑い夏を健やかに乗り切っていただきたく存じます。

さて、今月は新聞から少し離れて私の趣味のお話をお聞きください。昨今、「趣味は何ですか」と問われれば「読書」または「音楽」と答えていました。事実、その時々で波はあります、どちらかが必ず私の心を癒してくれました。例えは読書。学生時代に山崎豊子氏や松本清張氏の作品を知り、気に入った作品は表紙がボロボロにならぬまで繰り返し読みました。数年前には「」の壮大なスケールがたまらない吉川英治氏、北方謙三氏、宮城谷昌光氏との作品を読み比べたりもしました。読書は、銀行の待ち時間や電車での移動時間のように、いつでもどこでも没頭できる手軽な物語についています。それもあり、読むのは専ら文庫本です。どんなに直ぐに読みたいくらいだった本でも、我慢して文庫化されるまで待つてから読みます。持ち歩くにはやはり文庫本が便利です。

そして音楽。学生時代にあるアーティストに憧れて始めたアコースティックギター。多い時には6台のギターを所有していましたが、今はお気に入りの1本を残し、その1本で表現の幅を広げようと練習しています。始めた当初に比べれば、コーチコート等もあり、練習の教材には事欠きません。今でも課題に挑戦しているときは、時間を忘れて夢中になってしまいます。また最近では、飲み屋仲間のバンド活動に声をかけたり新しい新たな仲間もできました。学生時代のように毎日手に触れることがありませんが、数年おきに波がきて若い心を取り戻させてくれます。

そして実はもう一つお休みしている趣味があります。それは「オートバイ」です。16歳で中型2輪の免許を取得してから第1子が生まれるまで夢中になつて駆け回っていました。北は北海道、南は本州最南端紀伊半島の海岸まで、年間の走行距離は毎年2万キロを超え、オートバイは当時の私の生活の中心になりました。妻との出会いもオートバイがきっかけです。そして新婚旅行はといえども泊7日の北海道ツーリング。乗り継ぎだオートバイも、オンロードのスポーツバイクからオフロードのトレッキングバイクまでと様々です。記憶に残っているツーリングも多々あります、振り返るとントを積んで向泊かするキャンプツーリングが一番楽しかったように思ひます。今より情報量が少ない時代です。キャンプ場選びも到着してみないと分からなうことが多く、キャンプ場の選定も楽しみの一つでした。中には、私たち

(妻と一緒に一人でのツーリング) 以外に宿泊客がおり、滞駐する管理者も居ないキャンプ場も多々あります。その中の一つ、「熊、出没注意」の張り紙と1週間前の被害写真を掲載する注意喚起のポスターが掲示されてるキャンプ場に宿泊した時の事。キャンプ場に到着した時はすでに夕闇が迫っていました。ポスターに気が付きましたが、新しいキャンプ場に移動する時間はありません。必要以上に声を出しながら夕食の準備をしたり、残飯を全く出さないよう気をつけたまま朝を迎えたのは、無事だったからこそその良い思い出です。また、キャンプとセットで楽しんでいたのが温泉です。立ち寄り湯で利用できる温泉も当時は多く、温泉を目的地にキャンプ場を決めることがほとんどでした。キャンプの経験は子どもが生まれてからも生き、移動手段はオートバイから車に変わりましたが、石川県勤務時代は海に沿った温泉も当時は多く、温泉を目的地にキャンプ場を決めることがほとんどでした。(笑)。そんなオートバイライフルも約20年遅れかつていましたが、数年前のイダースジャケット(革ジャン)の購入をきっかけに「このジャケットを着てまたオートバイに乗りたいな」との思いがわき、私の中のオートバイ熱が高まつていきました。弊社主任の栗飯原(あいはら)がオートバイに乗り始めたのも、ついに私の熱を高めました。年齢(来年50歳)やオートバイなしのガソリン車を取り巻く環境を想えぬと、今乗らないともつて一度もオートバイには乗ること無し、との結論に至り購入を決心します。まずは妻への説得です。長男の大学入学のタイミングとも重なり、当初は私の趣味への出費に対するなかなか理解は得られなかったのですが、彼女も元はライダー。妻も乗れそうなオートバイをチョイスすることであつたと協力が得られました。そうなれば話はどんどん拍子です。7月7日七夕の日、うだるような暑い日に納車となりました。汗だくになりましたが、少し近所を走り無事に帰宅しました。しかし、ライダースこそあれ、他にも必要なグッズがあつたことが思い出されます。そつちはワシワシ揃えながら初のツーリングを目指します。良い場所、良い景色、良い道等発見できればこの紙面でも紹介していきます。まずは1000キロの慣らし運転終了です。

スタッフ紹介 -中川三彦(なかがわみつひこ)-

ご好評いただいているおります、スタッフ紹介。今回は弊社社員、中川三彦を紹介します。



皆様、お世話になります、社員の中川です。私は、北海道小樽市出身、昭和45年生まれ△型のしお座です。絵を描くのが大好きで高校卒業後イラストレーターを目指し専門学校に通うため上京しました。その際に日経新聞の奨学生制度を利用したのが現在に至るきっかけです。20年以上前の奨学生制度です。当然今より厳しく、休みは少なく集金業務も大変でした。入学後すぐは、学校の授業も新鮮で頑張って仕事と学業を両立していましたが、2年目になると自分の習いたかった技術とは違う授業にもチベーションが下がってしまい休みがちになってしまします。当時の所長もそんな私に気が付いていたのでしょうか、「一足の草鞋でなく仕事一本、社員としてうちで働かないか」と声をかけてくれました。イラストレーターの夢を諦めやめたりしたことを見つけられていた私は、その所長の一声に感謝し、社員として働くことにしました。その所長の勇退後赴任してきたのが横山所長です。横山所長の人柄もよく、前所長と変わらず支えていきたいと思い、大田区より駒沢に移動してきました。子どもの頃より生き物を飼うのが大好きで、北海道の実家にいたころはザリガニ、亀にカブトムシなど男の子が興味を持つものはひと通り飼育しました。今はメダカを飼育しています。15年ほど前、20匹ほど購入したのがきっかけで、毎年繁殖させながら飼育しています。今では100匹以上になりました。可愛く泳ぐメダカを見ているとても癒されます。今年は東が丘方面の配達を担当しています。ベテランの名に恥じないよう丁寧な配達を心がけています。引き続きよろしくお願ひします。